

動悸、イライラ、不整脈、汗かき...

「バセドー病」可能性あり

昨年大みそかのNHK紅白歌合戦出場を決め、休養から復帰した歌手の絢香さん(24)が患っていたのがバセドー病だ。新陳代謝を促す甲状腺ホルモンが過剰に分泌され、激しい動悸や「イライラする」など心身に多くの異常を引き起こす。ただし、他の疾患でも同じ症状が出るため注意が必要だ。旭川医大では、傷痕が目立たない内視鏡による手術も始めた。(塚本博隆)

甲状腺に異常 他疾患と同症状 「注意を」

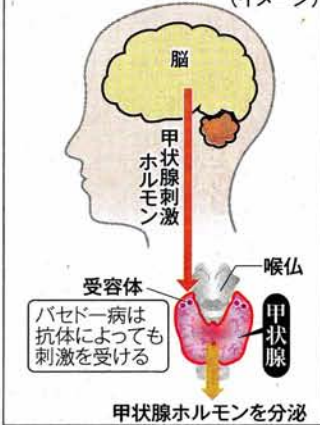
甲状腺は、喉仏の下部に位置し、チョウのような形をしている。縦は4〜5センチ、



遠山節子院長

横は5〜6センチ。重さは約15〜20グラムだ。甲状腺ホルモンが体内で減少すると、脳が甲状腺刺激ホルモンを放出し、甲状腺にある受容体に結びついて甲状腺ホルモンが分泌される。「甲状腺ドック」を開設し甲状腺の病気に詳しい「せつこ内科クリニック」(札幌市豊平区)の遠山節子院長は「正常な人は甲状腺を触っても分かりませんが、バセドー病の多くの人には甲状腺が肥大して触ると分かります。見た目では

甲状腺ホルモン分泌の仕組み (イメージ)



バセドー病の主な症状

- イライラして落ち着かない
- 脈が早い。動悸がする
- 食欲があるのにやせる
- 喉が渇く
- 汗をたくさんかく
- のぼせやすい
- 下痢が続く
- 微熱が続く
- 筋力が衰える
- 指先がふるえる
- 血圧が高くなる
- 月経異常

旭医大は昨年から内視鏡手術

るほど大きくなる人もいます」と説明する。

バセドー病になると、動悸やイライラのほか、不整脈、食欲が増えるのにやせる、喉が渇く、汗かきになるなどの症状が出る。しかし、多くの症状は他の病気でも見られるため「高血圧や心臓病、更年期障害、自律神経失調症、糖尿病などと間違えられやすい」と遠山院長は注意する。

バセドー病は、受容体が誤って「異物」と認識され、新たにつくられた抗体によって攻撃(刺激)を受け続けるために生じる疾患だ。この結果、甲状腺ホルモンが過剰に分泌してしまう。バセドー病の根本的な原因は分かっていないという。「遺伝的な傾向はありますが、遺伝だけで引き起こされるわけではない」と遠山院長は話す。ストレスも大きな関係があるとみられている。

治療法は抗甲状腺薬の服用が中心となるが、手術や放射性ヨードの投与による

方法がある。手術は確実性が高いが傷痕が残る短所がある。放射性ヨードは、妊娠中または授乳中の女性には投与できない。

また近年、傷痕が目立たない内視鏡による手術も加わった。旭医大の耳鼻咽喉科は昨年10月、道内では初めてとなるバセドー病患者の内視鏡手術を行った。従来の手術は首の前面を10センチ程度切り開く必要があった。しかし、内視鏡手術だと首に5ミリ程度の穴をあけて内視鏡を入れ、鎖骨の下部3・5センチを切り開いて患部を取り出す。鎖骨の下部のため傷痕は服に隠れやすいという。

ただし甲状腺の肥大度によって対象者に制限がある。バセドー病患者の甲状腺は100グラム以上になる場合もあるが、同科の片山昭公医師は「甲状腺が大きいと視野が確保できないため、50グラム以下の甲状腺が内視鏡手術の目安です」と話している。